

科目名 Subject	日本文化（華道） Traditional Art (Flower Arrangement)		教員名	松崎 美瞳	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1 単位
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30時間
実践的教育	○				
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	人間と自然に於ける共存の正しい在り方を華道という造形芸術を通し、理論、及び実技共に習得し日本の伝統文化を継承する。				
授業の目標	一般教養としての日本の花道史、及び生活芸術としての華道を学び、華道の精神と技術の習得を通して美意識を高める。それと共に、自然との共生を大切にする華道精神を理解することで、人間関係を改めて見つめ直しコミュニケーション能力やホスピタリティー精神の必要性を実感し習得、できるようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	毎回の授業で学ぶ構成図や構成表の復習、蔭井作品の再構成を行う。毎回の復習については60分～90分程度を想定しています。				
教科書・教材	教科書	花芸安達流 演習ノート「水」 プリント等			
	教材	演習ノート 筆記用具 色鉛筆 タオル			
	使用設備・備品	花器 花鋏 剣山 花盆			
	参考文献	花芸安達流著書全書			
評価方法	平常点（出席数、授業態度、毎回の課題点）50％、試験50％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。				
履修上の注意	植物アレルギーなどがある生徒は、事前に報告すること。				
本科目履修と関連する資格	資格名	花芸安達流 入会「水」の終了証			

YAMANO 2020

定期試験の要点について、掲示にて解説を行います。
レポートに対して、コメントを返します。
個別に実地指導を行います。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション 花寄せ	華道の授業に臨む心構えを学び同時に初めての花芸作品制作を実現することができる	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 2 回	花芸作品を制作するにあたってのプロセスの大切さを学ぶ	結果を出すことの大切さと同時にそのプロセスの大切さを理解し実践することができる	演習ノートの復習及び持ち帰った花材で再演習
第 3 回	各季節の行事に合わせ歴史や文化を学び、花芸作品を演習する	日本古来の文化や風習を学ぶことで伝統文化を深く理解し説明することができる	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 4 回	花芸作品を演習するために必須な構成図を理解する	正面図と平面図の必要性和具体的な見方を理解し実践することが出来る	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 5 回	素材（枝、花）の自然な姿を尊重し作品を生けることを学ぶ	人間と自然との共生を理解し具体的に実践することができる	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 6 回	花芸作品の美的バランスを学ぶ	造形空間においての日本と西洋の美的感覚の違いを学び具体的にバランス感覚を理解し実践することが出来る	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 7 回	安達流の構成三原則である〈五態〉を学ぶ	生態学、形態学より、〈五態〉を理解し具体的に説明することが出来る	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 8 回	安達流の構成三原則である〈文法〉を学ぶ	花芸作品を演習するにあたり、素材に役を定めることを理解し実践することが出来る	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 9 回	花道史、並びに鉢の扱いを学ぶ	華道の歴史を歴史的背景と共に理解し説明することが出来る	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 10 回	植物の生態について学ぶ	植物の生理現象である水揚げの仕組みなどを学び植物の管理法を理解し具体的に実践することが出来る	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 11 回	〈文法〉の授業で学んだ〈主要三格〉の比率を学ぶ	主要三格の力関係における美的バランスを理解し説明することが出来る	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 12 回	素材と花器のバランスを学ぶ	前回までの授業で学んだ素材間のバランスに加え、花器と作品とのバランスも会得し実践することができる	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 13 回	安達流の構成三原則の〈原型〉を学ぶ	〈原型〉を理解することで論理的に花芸作品のバランスを理解できるようになり具体的に説明することが出来る	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 14 回	複数人花芸作品を制作する〈連花〉の演習	〈連歌〉の心を受け〈連花〉を生けることで共同作業の効果を理解しコミュニケーション能力を身に着けることが出来る	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 15 回	授業の総復習と花束制作	華道の授業で会得した論理的な演習法、美的感覚、自然や社会との共生のあり方などを理解し具体的に述べることが出来る	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し